

第7回レジ袋削減推進協議会 議事録（要旨）

長野県環境部資源循環推進課

【開催日時】

平成28年11月21日（月） 13:30～15:00

【開催場所】

長野保健福祉事務所 3階会議室

【参加者】

事業者（7社）、消費者（2団体）、関係団体（2団体）、行政（長野県環境部）、計17名

【協議事項】

（1）レジ袋削減協働アピールに係る総括について

○県から資料に沿って説明

○長野県レジ袋削減を進める県民の会から作成した資料に沿って説明

（2）今後の方向性について

○レジ袋削減の取組継続に関する主な意見等

消費者 団体	<ul style="list-style-type: none">・消費者サイドのレジ袋削減運動の担い手が高齢化により不足。・活動を伝える意味でも、若い世代への学校教育や環境学習が重要。
関係団体	<ul style="list-style-type: none">・レジ袋削減運動は、シンボリックな意味合いが大きいので、ぜひ継続してほしい。・レジ袋削減やマイバッグ持参については、ホームページや月刊誌などでPRしてきたが、今後も同様の形で広く周知を行っていきたい。
事業者	<ul style="list-style-type: none">・競争環境が厳しい時には、レジ袋有料化を辞めたいと思うこともあるが、環境問題を考えるシンボリックなものであり、非常に大切な取組である。・同業他社の参加が進んでいない部分もあるので、どのように活動を広げていくかということも重要になってくる。・レジ袋有料化は、お客様に負担をかけないという観点から見送っている。・レジ袋削減の意識が希薄化しないように、常に啓発活動をしていくことが重要。・今後消費が低迷してきた場合、レジ袋の無料化が復活することがないように、行政や消費者と連携し、レジ袋削減の雰囲気作りは続けていきたい。・無料配布中止を始めたときは、思っていたほどの影響はなかった。これは、環境に対する取組を先行した企業や自治体、消費者団体がアピールしてきたことによって受け入れられる素地ができてきたと思う。・個々の企業で行うには難しい部分があるが、連携することによって、実施の壁が低くなると感じているのでこうした取組は続けていきたいと思う。また、レジ袋だけが環境に関わる問題ではないので他のところに焦点を当ててやっていくことは良いと感じている。
会長 （まとめ）	<ul style="list-style-type: none">・レジ袋削減の取組は今後も続けていく必要があるというのが共通の意見。・県からはレジ袋削減に留まらず、ごみの減量化も協議会で検討してはという話があった。

○協議会の活動に「ごみ減量化」の取組を加えることに関する意見等

行政	<ul style="list-style-type: none"> ・レジ袋削減については、シンボリックな意味合いを持つ重要な活動として引き続き取り組んでいきたい。 ・その上で、産業廃棄物だけでなく、事業系一般廃棄物、紙ごみ、食品ロスなども多く排出されているので、この協議会を母体として様々なごみの減量化の取組を考えていけないかと思っている。 ・フードバンクや紙ごみ、食品ロス削減、店頭回収などについて事業者、消費者、行政の3者で意見を交わす場がないので、協議会をそういう場にも活用できないかと考えている。
消費者 団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの減量化に取り組む場合、かなり枠が広がると同時に目標、共通課題が大事になってくると思う。 ・この協議会は消費者の活動に足場を置いたものだと理解しているが、ごみ減量化の場合には、必ずしも消費者の活動に直結しない部分があるので、協議会としての方向性がぼやけてしまうのではないかと心配。 ・もし取り組むのであれば容器包装の特定なものについて、消費者自ら進んでやっていけるような環境教育とか意識啓発につながっていくものをレジ袋と連動してやっていくよう検討してほしい。
事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみを減らすというのは、それぞれの事業者の問題であって、この協議会で協議するのは控えた方がよいと思う。 ・レジ袋削減という形で取り組んだ方が、消費者にはなじむと思う。 ・ごみの削減を扱う場合、消費者の理解がもらえれば、売り方などでごみの削減につながるものもあると思うが、ある程度のボリュームがないと効果的な取組にはならないと思うし、今、すぐに頭に浮かぶものはない。 ・食品ロスは、宴会とか飲食店での残さの方が圧倒的に多い気がしているので、ボリュームから考えれば、そちらでの取組を優先してもらう方が効果はあると思う。 ・店頭回収は、洗浄などのお願いがなかなか徹底できず、リサイクルの作業に負担が出ている。混ぜればごみ、分ければ資源であるので分別が重要。その部分の啓発は、事業者だけでは効果が低いので、レジ袋と同様に県や消費者団体と一般消費者へのアピールという形で取り組むのであれば、一つの切り口になるのかなと思う。
会長 (まとめ)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業系のごみや食品ロス削減は、それぞれの事業者が努力しており、消費者が関わることはあまりないというのが共通の意見。 ・ただその中で、消費者サイドが店舗の活動とつながるとすれば、例えば容器包装リサイクルに関する店頭回収などが考えられる。その場合、レジ袋削減とは別の活動も考えてもよいのではないかという意見。

○今後の協議会の活動に関する意見等

行政	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会の中で、もう少し人数をしばらく課題の洗い出しなどを話し合えるようにしていけたらと思っている。
----	--

消費者 団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数での課題整理の会を一旦やった方が良いのではと思う。
関係団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協議会として、レジ袋の削減を更に進めるためにどういう方策があるのか、メンバーの構成や参加業態はどうするのかなど、まだ検討することは残っているので、やりきったとは言えないと思う。 ・ ごみの減量化を考える場合も、今ここにいるメンバーのベースを崩さないような形の三者が関わった上でどんなことができるかというようなことを検討していくことが基本になると思う。
会長 (まとめ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の協議会について、次の数値目標やどういう活動と一体化できるかなど検討する体制について、私と事務局に預けてもらいたい。 ・ 検討内容等は適宜情報提供していく。